

私たちは、魚でした vol.14

『北海道の漁業・水産業の未来を考える』

文 作間 健太郎 text by Kentaro Sakuma

先日、日本海側の漁業協同組合に寄りながら日本最北端である稚内市に泊り出張に行きました。

稚内に到着し、遠くには利尻島（利尻富士）が見え、綺麗だなと感動しホテルに向かっていったところ、パークゴルフ場が現れ、何とそこに17頭のエゾシカがコースの芝を美味しそうに食べているではありませんか。札幌から約300kmのところで見えた光景は、北海道に住んでいて良かったと改めて実感させてくれました。

稚内はかつてロシアとの蟹貿易によって栄え、1975年には人口約5万5000人でしたが、2017年には約3万5000人となってしまいました。

2014年に施行されたロシアとの密漁防止協定により、今後は更なる人口減少が予想されています。

稚内市から南に約90km離れた養殖帆立の名産地、遠別町の漁業協同組合に伺った際にも、若年層の都市部への人口流出でベトナム人を雇用しているとの事で、お付き合いさせていただいて



Profile
北海道札幌市生まれ。札幌市在住。38歳。
10代後半から起業する目標を持ち、31歳で自分のキャラクターを生かせる水産業・株式会社札幌大成を起業。現在7期目。10期目である2020年までの目標に向けて奮闘中。
趣味は5年前から始めたゴルフ。趣味での目標は40歳までにクラブチャンピオン、後、北海道のトップアマチュア。

いる漁師さんも将来的に漁業者が居なくなるのではないかと危惧しています。更に北海道は漁業者の減少と共に、以前からお伝えさせていただいている『水揚げ不足』も深刻で、今が旬の秋鮭の水揚げ高が前年比の約50%、漁獲金額は20%弱のダウンになっています。数量が半分になり、水揚げ金額が20%ダウンという事はもちろん高値です。それに伴い、大人気商品のいくらかも今年の

だが、開店休業状態でした。今年の高値によって製造をあきらめて他商材で商売をつなげている製造業者もあるらしいです。

の新物価格は前年比約40%アップとなっており、10年前に比べて約3倍になってしまいました。このまま高値が続いてしまうといくらの醤油漬がキャビアのようになってしまうかもしれません。

秋鮭の水揚げが半分になっている反面、網にはブリ、ブリ、ブリ。何と前年の10倍くらい水揚げされています。但し、北海道のブリは脂乗りが悪いのです。

先日、北海道内のニュースでもいくらの製造工場が取り上げられています。

サンマも深刻で、先日北海道上空を通過した北朝鮮のミサイルが太平洋沖に落下したせいとか、その後数日は札幌中央卸売市場の入荷数が激減しました。未来の北海道の漁業及び水産業はどうなるのでしょうか。明るい未来を待つのではなく、自身で灯りをつけなければならぬと考えております。